

(普通作物-稲-栽培)

(豊前-普通作物、農産-栽培-作物栽培)

課題名	7 地域水田農業技術確立試験				分類	①			
	水稻良食味品種「キヌヒカリ」の施肥法								
試験研究年次	63~2年(継続)								
I 目的 良食味品種「キヌヒカリ」の良質、安定栽培法を確立するため、早期及び普通期栽培における適正な施肥法を明らかにする。									
II 試験方法 ＜豊前分場＞									
1 試験圃場 豊前分場1号圃(細粒灰色台地土、灰褐色)									
2 供試品種 キヌヒカリ、コシヒカリ									
3 試験区の構成									
年次	品種	移植期	苗質	施肥量	年次	品種	移植期	苗質	施肥量
S.63		月 日		N·kg/10a	H.1		月 日		N·kg/10a
	キヌヒカリ	4 25	稚苗	5-1.5-1.5		キヌヒカリ	4 25	稚苗	5-1.5-1.5
	"	"	"	7-1.5-1.5		"	"	"	7-1.5-1.5
	"	"	中苗	5-1.5-1.5		"	"	"	0-1.5-1.5
	コシヒカリ	"	稚苗	5-1.5-1.5					
キヌヒカリ	6 6	稚苗	5-1.5-1.5						
注) 施肥量は基肥-穂肥①-穂肥②を示す。									
4 栽植密度 22.2株/m <sup>2</sup> 、1株4本手植									
5 試験規模 1区20m <sup>2</sup> 、2区制									
＜農産研究所＞									
1 試験圃場 農産研究所第2水田(中粗粒灰色低地土 - 造成田)									
2 試験区の構成									
年次	移植期	苗質	施肥量	3 供試品種 キヌヒカリ					
H.1	月 日		N·kg/10a	4 栽植密度 22.2株/m <sup>2</sup>					
	4 25	稚苗	5-1.5-1.5	1株4本手植					
	"	"	6-2.0-1.5	5 試験規模 1区20m <sup>2</sup> 、2区制					
	6 9	"	5-1.5-1.5						
"	"	6-2.0-1.5							
III 主要成果の概要									
良食味品種「キヌヒカリ」の、平坦地における4月下旬~5月上旬植(早期)と6月上旬植(普通期)において、安定した収量と品質を確保するための、適正な施肥法はつぎのとおりである。									
キヌヒカリの移植時期別施肥法(N kg/10a)									
移植期	10a当たり目標収量	基肥	1回目穂肥	2回目穂肥					
4月下旬~5月上旬	550 kg	5.0~6.0	1.5~2.0	1.5					
6月上旬	490	4.0~5.0	1.5	1.5					
(1) 1回目穂肥時期									
4月下旬~5月上旬植は出穂前22日~18日(幼穂長2~5mm)に施用。									
6月上旬植は出穂前20日~16日(幼穂長3~8mm)に施用する。									
(2) 2回目穂肥は、1回目穂肥の7~10日後に施用する。									

IV 主要成果の具体的データ

第1表 キヌヒカリの施肥量及び移植時期と生育・収量 (63年、豊前分場)

品種	移植期	苗質	施肥量	出穂期	葉色	倒伏程度	穂発芽	m <sup>2</sup> 当り	登熟歩合	10a当り	検査等級
	月・日		N・kg/10a	月・日			%	x100	%	kg	等
キヌ	4.25	稚苗	5-1.5-1.5	7.17	4.0	極微	1.6	298	88	569	1中
"	"	"	7-1.5-1.5	7.17	4.3	微	0.8	334	81	589	1下
"	"	中苗	5-1.5-1.5	7.16	3.9	無	1.3	303	86	596	1下
(*)コシ	"	稚苗	5-1.5-1.5	7.16	3.8	中~少	0	299	86	561	1下
キヌ	6.6	稚苗	5-1.5-1.5	8.10	3.4	少	0.2	298	78	534	1下

注) ①第1回目穂肥は出穂前18~20日に施用。  
 ②葉色は、第1回目穂肥時にカラースケールにて観察(第3表も同じ)。

第2表 キヌヒカリ(稚苗)の4月25日移植における施肥量と生育・収量 (1年、豊前分場)

施肥量	出穂期	倒伏程度	m <sup>2</sup> 当り	登熟歩合	10a当り	検査等級
N・kg/10a	月・日		x100	%	kg	等
5-1.5-1.5	7.23	無	311	85	547	1下
7-1.5-1.5	7.23	無	344	84	591	1下
0-1.5-1.5	7.22	無	229	89	408	1下

注) ①第1回目穂肥は出穂前22~23日に施用。

第3表 キヌヒカリ(稚苗)の施肥量と生育・収量・食味 (1年、農産研究所)

移植期	施肥量	出穂期	葉色	倒伏程度	m <sup>2</sup> 当り	登熟歩合	10a当り	検査等級	食味総合評価
月・日	Nkg/10a	月・日			x100	%	kg	等	
4.25	5-1.5-1.5	7.25	3.0	無	342	84	633	1F~2上	0.11
"	6-2.0-1.5	7.25	3.2	無	368	79	663	1F~2上	-0.18
6.9	5-1.5-1.5	8.14	3.5	無	286	89	571	2上~2中	-
"	6-2.0-1.5	8.14	3.7	無	310	85	572	2上	-

注) ①第1回目穂肥: 4月25日植一出穂前22日、6月9日植一出穂前16日に施用。  
 ②食味評価の基準米は、4月25日植コシヒカリ。

第4表 極早生品種の穂発芽 (1年、豊前分場)

調査日	倒伏の有無	キヌヒカリ	ミナアサヒ	コシヒカリ
8月29日	倒伏無	0%	0%	0%
8月29日	強制倒伏	3.0	3.5	0
9月4日	強制倒伏	5.0	4.5	1.0

注) ①4月25日移植、稚苗、標肥栽培  
 ②成熟期: 8月28~30日  
 ③強制倒伏は8月18日に強制的に挫折倒伏させた。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 本成果を技術情報として、「福岡県良質米生産技術指針」に記載する。
- 2 水管理は、有効茎が確保された時点から、7~10日間の中干しを行う。  
 早期作では、中干し期間が梅雨時期と重なることがあるので、中干し期間を延長する。
- 3 キヌヒカリは穂発芽しやすいので、多肥栽培をさげ、倒伏させないよう留意する。
- 4 食味低下を防ぐため、実肥は原則として施用しない。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 野菜後作におけるキヌヒカリの適正な施肥法。

VII 資料名

- 1 昭和63~平成1年度 豊前分場 普通作物及び、農産研究所 作物栽培研究室 夏作試験成績書